

就労世代の歯科健康診査推進事業に係る調査研究
成果報告会

働き世代への歯科口腔保健を 推進するにあたり

神奈川歯科大学
山本龍生

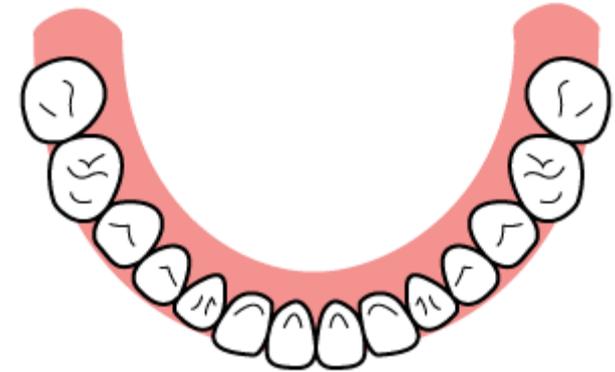
2025年3月10日

内 容

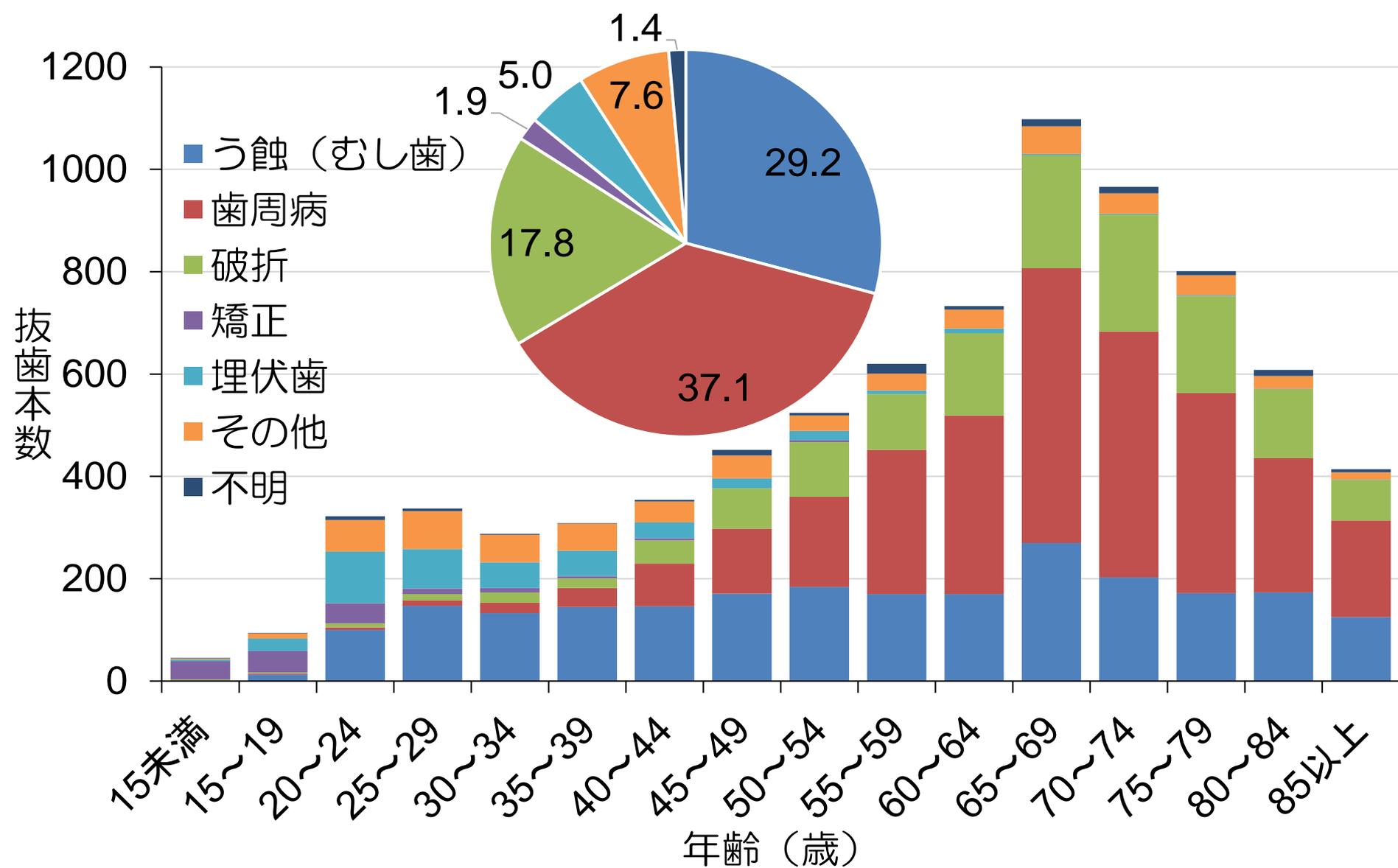
- 超高齢社会になり、健康寿命の延伸が課題
- 健康長寿になるには歯の維持が必要
- 永久歯の喪失原因はう蝕と歯周病で予防可能
- 公衆衛生的に有効なう蝕予防法のフッ化物配合歯磨剤の普及
- 歯周病は自覚症状がなく、定期歯科受診が必要（チェックと歯石除去）
- 高校卒業後は歯科健診が任意
- 歯周病は働き世代で進行
- 高齢者で歯周病有病者の増加
- 企業等での集団歯科健診は経済的にも効果的



- 寿命が長い
 - 死亡率は、20歯以上に比べて、10~19歯で1.3倍、0~9歯で1.7倍
- 健康寿命が長い
 - 要介護になる危険度は、20歯以上に比べて、19歯以下で1.2倍
- 認知症になりにくい
 - 20歯以上に比べて、19歯以下で1.2倍
- 転倒しにくい
 - 20歯以上に比べて、19歯以下・義歯未使用で2.5倍



歯が多い高齢者の特徴



永久歯の抜歯の原因

（8020推進財団，第2回 永久歯の抜歯原因調査，2018年）

日本歯科医師会会員2,345人：6,541人の患者の8,003本の永久歯が抜去。

う蝕予防のガイドライン

(米国予防医療研究班, 1993)

予防的介入方法	証拠の質	勧告の強さ
フッ化物の全身的応用 (上水道, 錠剤)	I	A
フッ化物の局所的応用 (歯磨剤, 洗口, 塗布)	I	A
シーラント	I	A
甘いものを控える	II-1	A
就寝中の哺乳瓶使用を控える	III	B
個人的な歯科衛生 (フッ化物非含有歯磨剤, フロス)	III	C
定期的な歯科検診	III	C

証拠の質

- I : 最低1つ以上の正しくデザインされた無作為対照研究から得られた証拠
- II-1 : 無作為ではないがよくデザインされた対照研究から得られた証拠
- III : 臨床的経験, 記述的研究, 熟達した委員会の報告に基づく意見

勧告の強さ

- A : 定期健診に含むべきだという勧告を支持する確かな証拠がある
- B : 定期健診に含むべきだという勧告を支持する証拠がある
- C : 定期健診に含むべきだと考えられるだけの証拠が乏しい

歯周病予防のガイドライン

(米国予防医療研究班, 1993)

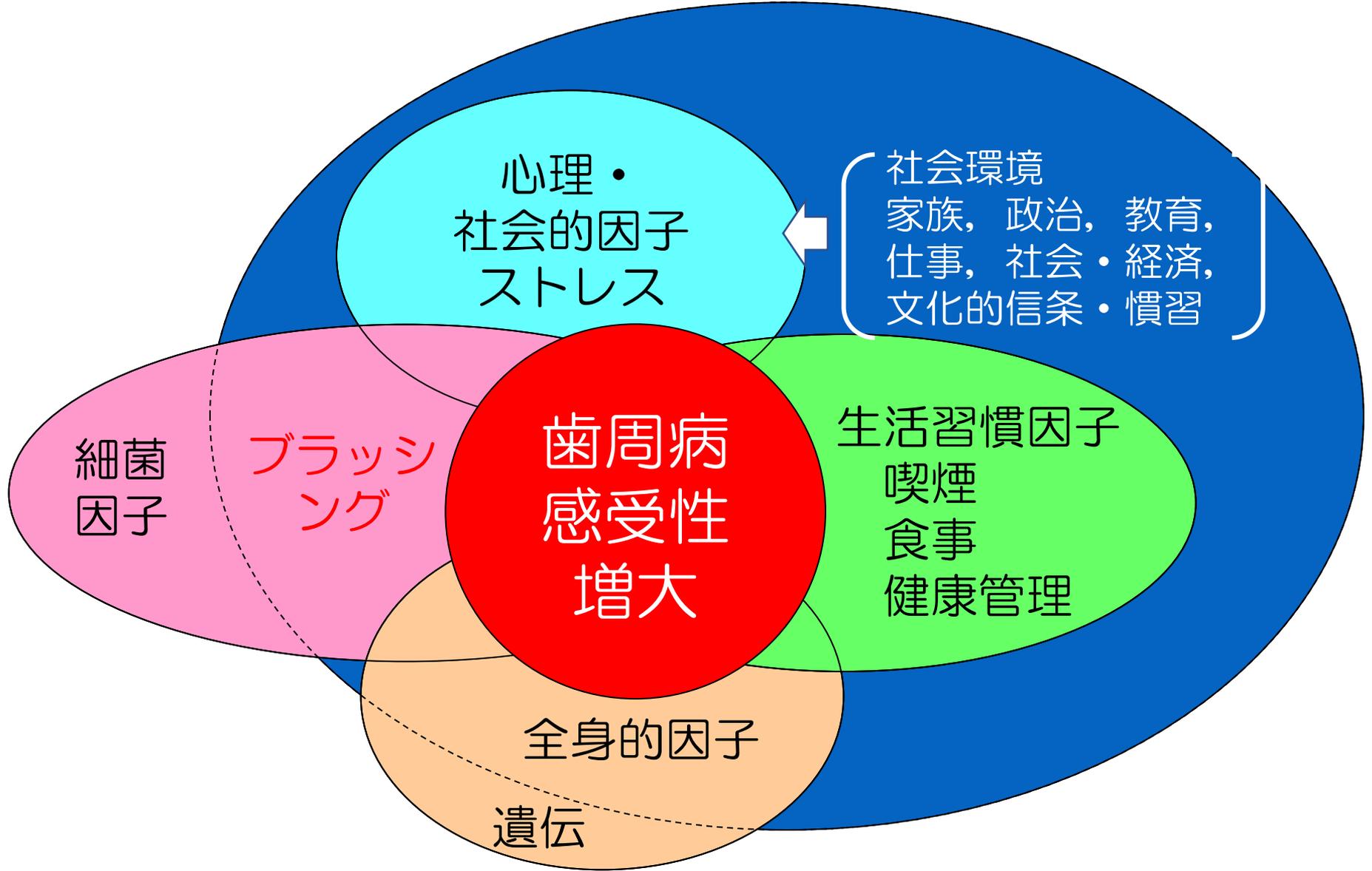
予防的介入方法	証拠の質	勧告の強さ
個人による口腔衛生 (ブラッシング)	I	A
専門家による歯石除去等と個人口腔衛生の組合せ	I	A
クロルヘキシジン (高リスク者のみ)	I	A

証拠の質

- I : 最低 1 つ以上の正しくデザインされた無作為対照研究から得られた証拠
- II-1 : 無作為ではないがよくデザインされた対照研究から得られた証拠
- III : 臨床的経験, 記述的研究, 熟達した委員会の報告に基づく意見

勧告の強さ

- A : 定期健診に含むべきだという勧告を支持する確かな証拠がある
- B : 定期健診に含むべきだという勧告を支持する証拠がある
- C : 定期健診に含むべきだと考えられるだけの証拠が乏しい



歯周病のリスク因子

(Clarke et al., J. Clin. Periodontol., 1995)

歯周病とは

- 原因は歯垢（細菌のかたまり）
- はじまりは歯と歯の間
- ほとんど症状なし
- 症状（歯が痛くてかめない）が出る頃には治療困難

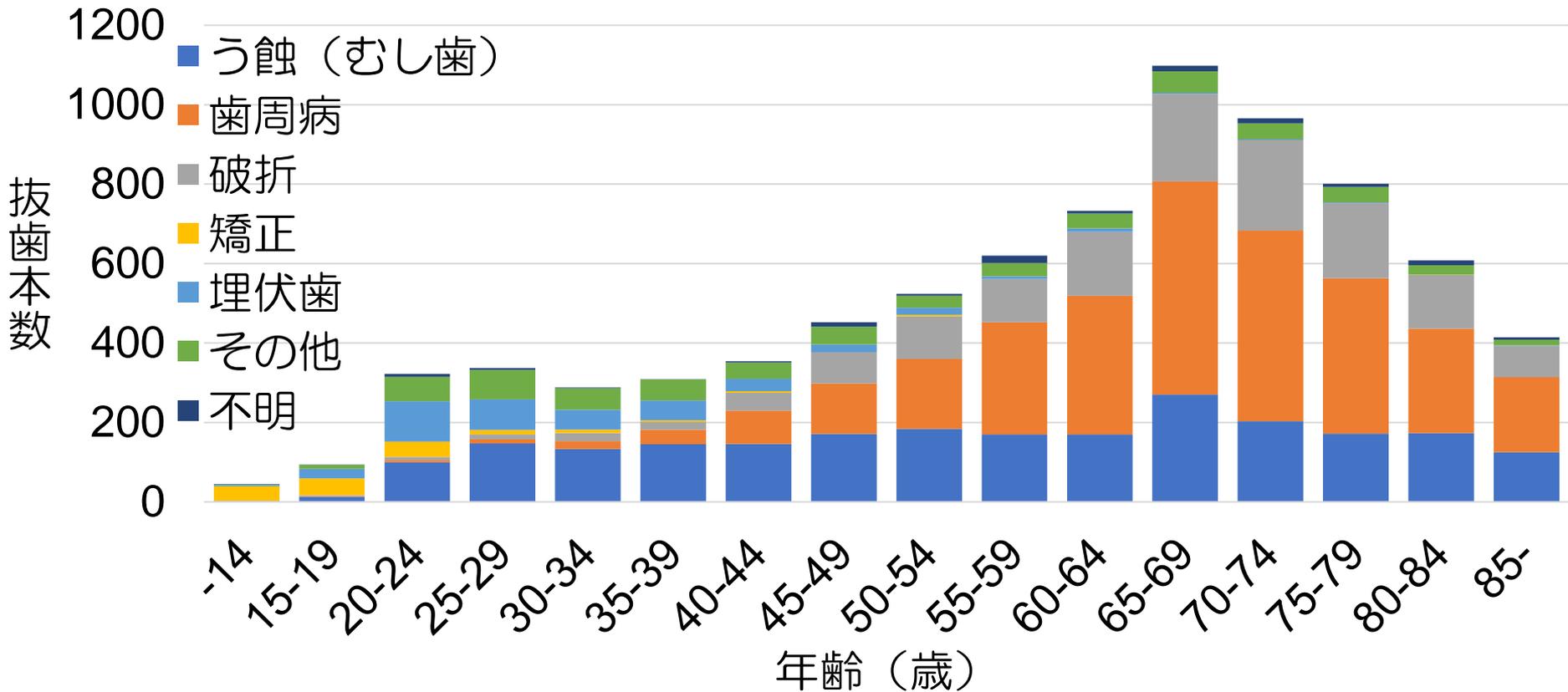


正常な歯肉



歯周病の歯肉

（木下正良先生より（一部改変）⁸）



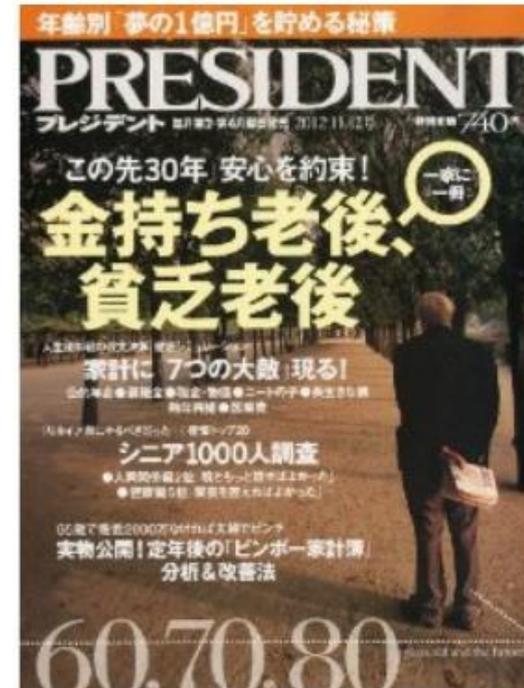
法律的に義務化されている
歯科健診は就学期まで…

歯科口腔保健の推進に関する法律

永久歯の抜歯原因と法的基盤

(第2回 永久歯の抜歯原因調査, 2018年)

- (1) 歯の定期健診を受ければよかった。
- (2) スポーツなどで体を鍛えればよかった。
- (3) 日ごろから歩けばよかった。
- (4) 腹八分目を守り，暴飲暴食をしなればよかった。
- (5) 間食を控えればよかった。
- (6) 頭髪の手入れをすればよかった。
- (7) たばこをやめればよかった。
- (8) ストレスの解消法を見つけておけばよかった。
- (9) よく笑い，くよくよ悩まずに過ごせばよかった
- (10) 不規則な生活をしなればよかった。
- (11) なんでも相談できる医師を見つけておけばよかった。
- (12) バランスを考えて食事をすればよかった。
- (13) 早寝・早起きをすればよかった。
- (14) 肌の手入れをすればよかった。
- (15) 悩み事を相談できる相手を見つけておけばよかった。
- (16) 定期健康診断を受ければよかった。
- (17) 軽い不調を侮らず早めに治療すればよかった。
- (18) ボケ防止のためもっと脳を使えばよかった。
- (19) 眼の定期検診を受ければよかった。
- (20) 身体にいいものを積極的に食べればよかった。

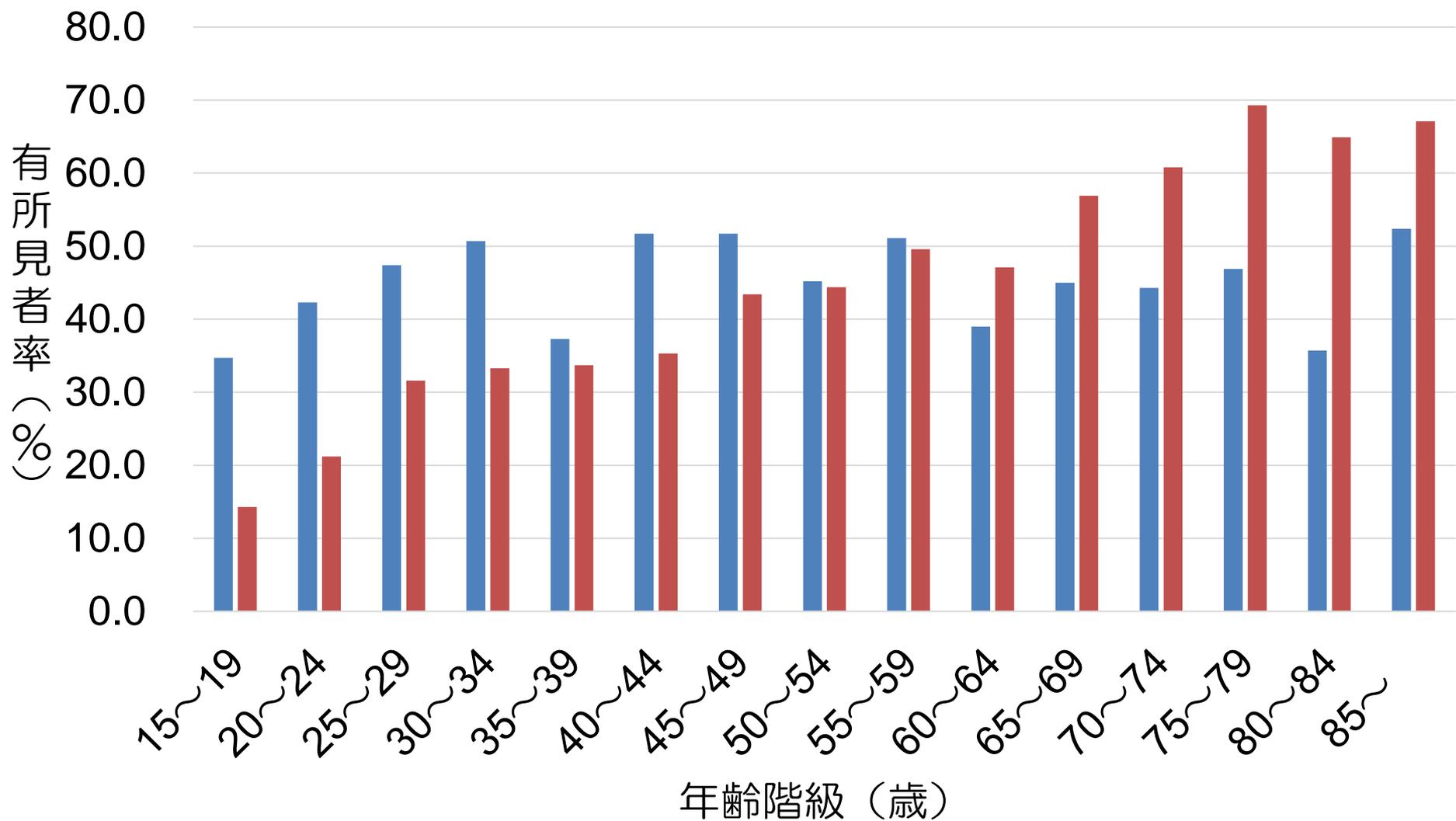


『リタイア前にやるべきだった・・・』

「健康」の後悔トップ20」

(プレジデント 2012年11, 12月号)

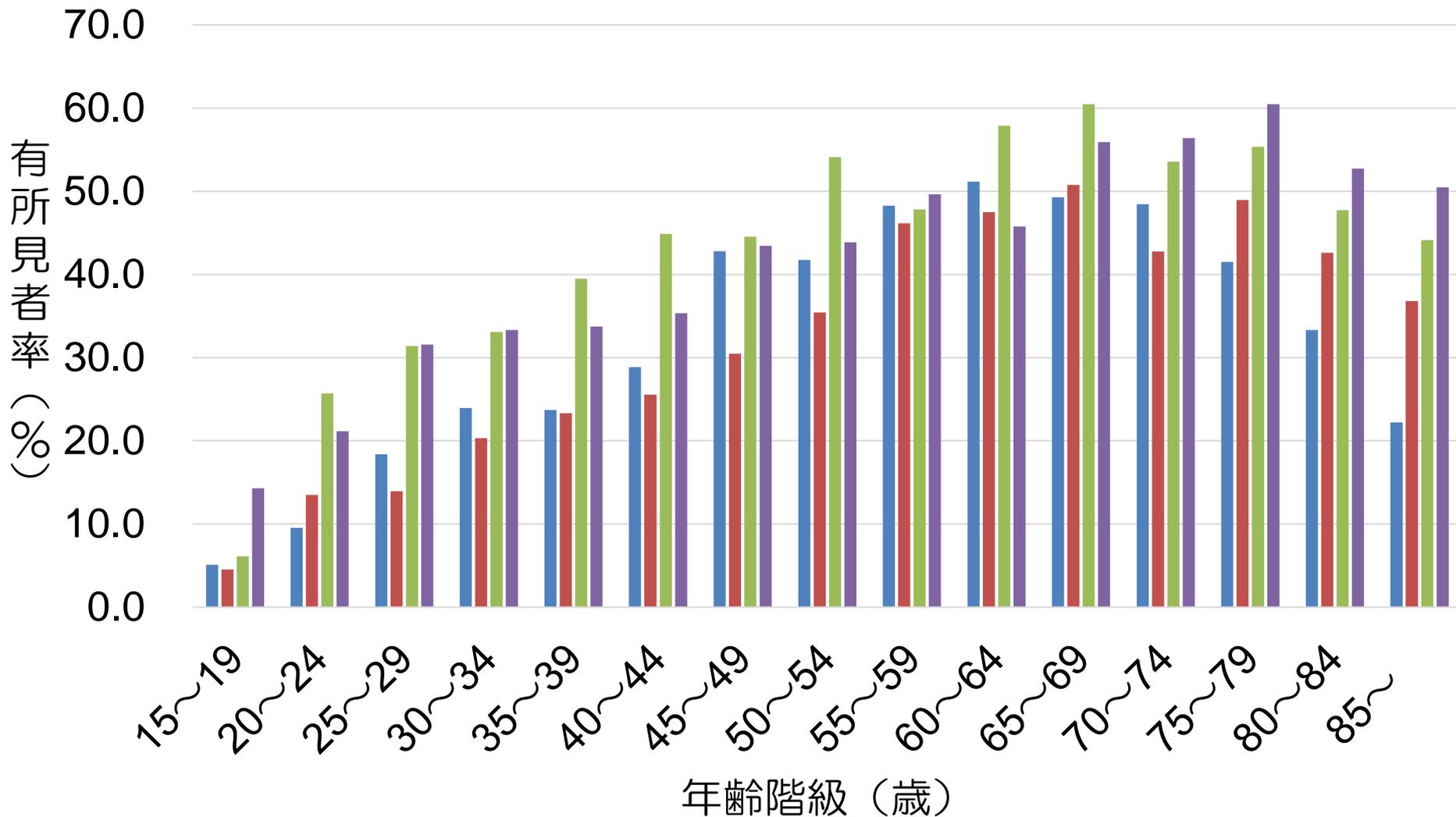
■ 歯肉出血 ■ 歯周ポケット



年齢階級別歯肉の有所見者率

(2022年歯科疾患実態調査結果より演者作図)

■ 2005年 ■ 2011年 ■ 2016年 ■ 2022年



年齢階級別、歯周ポケット (≥4 mm) 保有者率の推移

(歯科疾患実態調査結果より演者作図)

地域環境（都市化，医療機関，ソーシャル・キャピタルなど）

社会経済的要因

教育



職業



所得

幼少期

学齡期

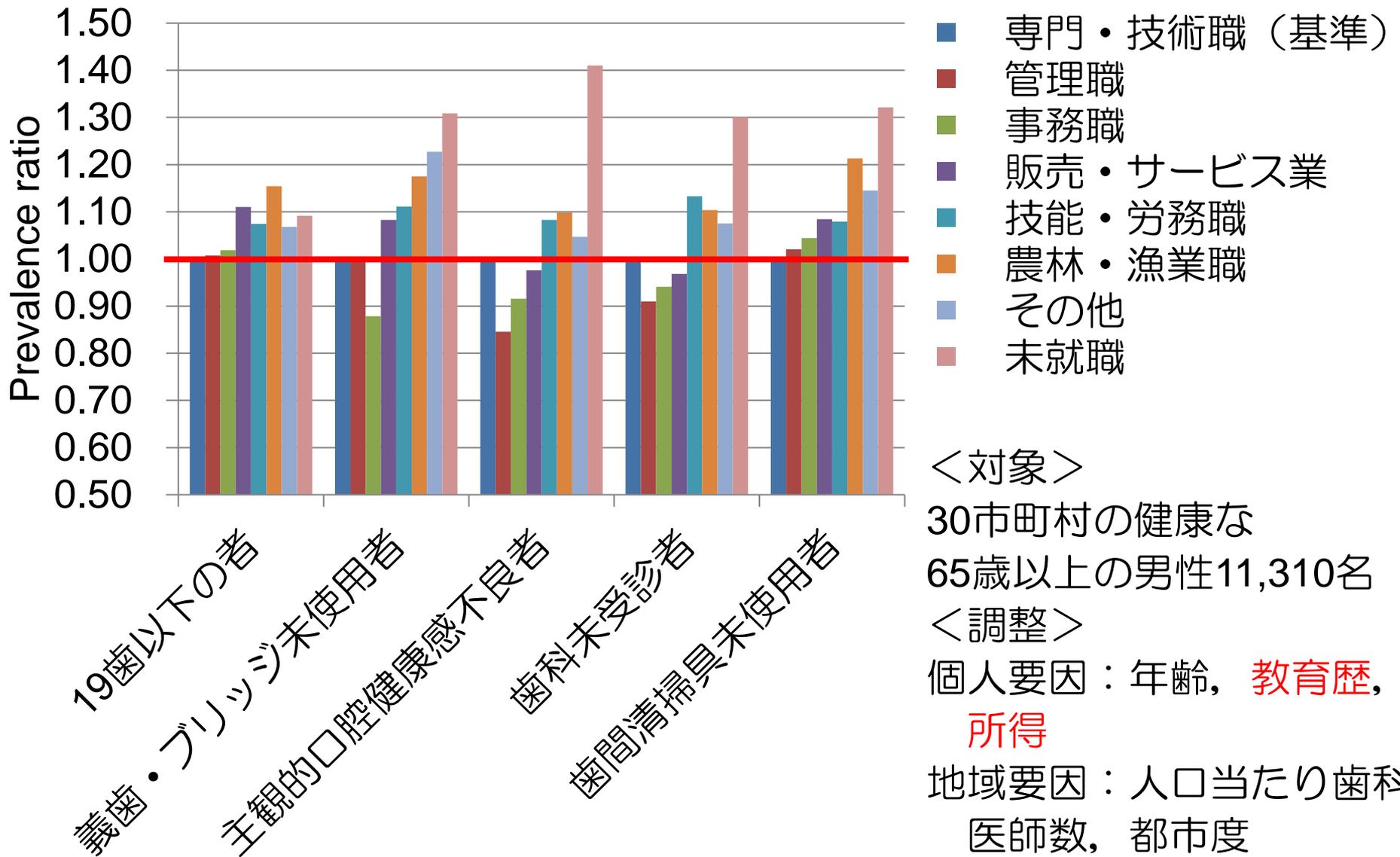
成人期

老年期

人生の早期

人生の晩期

ライフコースアプローチ



最長職と高齢期の歯科口腔保健

(Yamamoto et al., BMC Oral Health, 2014)

職域・自治体での歯科保健活動の期待される効果

短期的効果

- 歯科保健行動（ブラッシング、喫煙、食習慣など）の変化
- 労働生産性（痛みによる集中力の減退、歯科受診による労働時間の損失など）の向上

中・長期的効果

- 歯科疾患有病率の改善
- 歯科医療費の減少
- 生活習慣病有病率の改善
- 医科医療費の減少



まとめ

- 超高齢社会になり、健康寿命の延伸が課題
- 健康長寿になるには歯の維持が必要
- 永久歯の喪失原因はう蝕と歯周病で予防可能
- 公衆衛生的に有効なう蝕予防法のフッ化物配合歯磨剤の普及
- 歯周病は自覚症状がなく、定期歯科受診が必要（チェックと歯石除去）
- 高校卒業後は歯科健診が任意
- 歯周病は働き世代で進行
- 高齢者で歯周病有病者の増加
- 企業等での集団歯科健診は経済的にも効果的

